

講演会及び研究集会の記録

平成24年度弘前大学非常勤講師研修会 テーマ「21世紀教育科目に関する研修会および意見交換会」

21世紀教育センター高等教育研究開発室 田中正弘

本学では、今年度からの新たな試みとして、21世紀教育科目を担当した（する予定の）非常勤講師を対象とした研修会・意見交換会を、3月18日（月）13:30～16:00に開催しました。この研修会の目的は、「21世紀教育科目の運営体制と成績評価のガイドラインなどについて概説するとともに、21世紀教育の指導に関する意見交換を実施することで、本学の非常勤講師の課題の探求に努める」ことでした。



平成24年度弘前大学非常勤講師研修会は2部構成で計画され、非常勤講師18名、本学教職員8名の計26名が参加して、活発な意見交換が行われました。この研修会では、中根明夫先生（理事・教育担当）の開会挨拶に続いて、第1部の司会は、小岩直人先生（21世紀教育センターFD・広報専門委員長）が担当しています。第1部の研修内容は二つあり、その一つが木村宣美先生（21世紀教育センター長）による「21世紀教育科目の運営体制」です。その運営体制の詳細について、「弘前大学『21世紀教育』実施要項」（平成18年2月17日改訂）を参照しつつ、説明が行われるとともに、本学における教養教育改革の流れを時系列的に把握できるように、その流れをまとめた報告書の一部が紹介されました。それから、国際教育センターの設置による英語教育の強化など、次年度に予定されている改革案



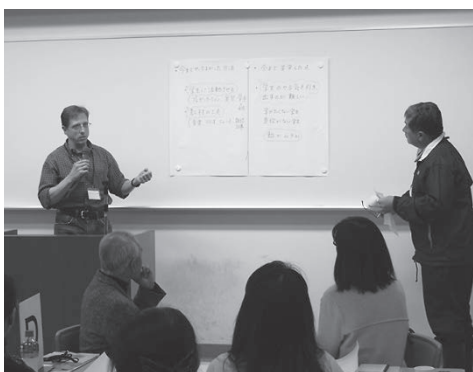
などについても、簡単な説明がなされました。

第1部の二つ目の研修は、藤崎浩幸先生（21世紀教育センター教務専門委員長）による「成績評価および不正行為への対応について」の説明でした。成績評価に関しては、平成18年12月21日に21世紀教育センター運営委員会で承認されている、21世紀教育科目の『成績評価の方法と基準』に従って、出席が授業回数の3分の2に満たないものは不可とする決まりや、試験・レポートの返却に関する努力義務、および標準的な平均点の設定についての説明がありました。加えて、「定期試験実施における不正行為の取り扱いに関わるガイ



ドライン」の説明が行われました。この説明に対するフロアからの質問として、不正行為を行った学生や体調不良の学生がいた場合に、試験監督が一人だと、職員に連絡する方法がないので、どのように対処すべきか教えてほしいというものがありました。そこで、この問題への解決策として、各教室に電話を設置すべきではないかという有意な意見が出されました。

非常勤講師研修会の第2部は、田中正弘（21世紀教



育センター高等教育研究開発室長)の司会の下で、ラウンドテーブル「非常勤講師としての経験と教育に関する意見交換」が実施されました。非常勤講師が4つの班に分かれて、自らの授業で有効な試みと、自らが直面している困難を議論する機会を設けました。そしてそれらを班ごとにまとめて、その内容を発表してもらいました。四つの班に共通していたこととして、学生のペアワーク・グループワークを活用することが、授業での有効な試みとして紹介されたことです。特に、グループワークの活用は、学力差があるクラス運営では有効だと思うという示唆は、意義深いものがあると思われます。また、発表の機会を設けるなど、学生に活動させることも重要であると、多くの班で唱えられました。

興味深いことに、苦勞している点でも、学生間の学力差が共通して挙げられていました。そして、より細分化された能力別クラスの採用などが提案されました。加えて、グループワークや学生の発表を活発にさせるための「雰囲気づくり」が難しい、という意見も多々ありました。ただし、その雰囲気作りのための個々の工夫やテクニックが披露されるなど、意見交換の意義を再確認できる機会にもなりました。

今後も、役に立つ非常勤講師研修会を定期的実施できるように、努力していきたいと存じます。

